

協定締結機関のご紹介

都産技研では、大学研究機関、支援機関、行政機関、金融機関など、10月末現在で46の機関と包括協定等を締結しています。それぞれの機関が持つ特性を生かしあい、連携していくことで、東京の産業振興の発展、地域産業の活性化を図ることを目的としています。



公益財団法人 東京都農林水産振興財団

(平成24年12月7日協定を締結)

今回は、農工連携により、東京の産業を支える中小企業と農林水産業の振興を図るために協定を結んだ「東京都農林水産振興財団」を紹介します。東京都農林総合研究センターの中村氏、野口氏から連携に関してお話を伺いました。

より収益性の高い農業技術を開発



公益財団法人 東京都農林水産振興財団
東京都農林総合研究センター
研究企画室 主任研究員

中村 圭享 氏

東京都の産業というと、工業やサービス業といったイメージがありますが、都内には約一万戸の農家が存在し、さまざまな農作物を生産して

います。東京都農林水産振興財団は、農業現場に密着したサポートを行うために、試験研究部門として東京都農林総合研究センターを設置し、野菜、花、果樹などの品種改良はもちろん、土壌改良、都市緑化まで幅広い技術の支援を進めています。

最近では、植物工場をはじめとして、農業のシステム化が進んでいます。そこで、私たちは今年度から「東京農業イノベーションプロジェクト」として、ビニールハウス内外にさまざまなセンサーを配置し、作物の品種にあわせて24時間体制で生育環境を最適化する統合環境制御システムの開発をスタートさせました。このシステムに、都産技研の持つ無線センサーネットワーク技術を活用したいと考え、共同研究を始めました。統合環境制御システムの実現により、耕地面積、農業人口などの限られた資源のなかで、高品質で収益性の高い農業を目指しているのではないかと期待しています。

日常のやりとりを積み重ね、連携を進めていきたい



公益財団法人 東京都農林水産振興財団
東京都農林総合研究センター 園芸技術科
野菜研究チーム 主任研究員

野口 貴 氏

東京都農林総合研究センターは、都産技研多摩テクノプラザとともに、多摩地域の産業支援拠点である産業サポートスクエア・TAMAに位置しています。同じ敷地内にいることもあり、お互いの技術を交換し合うなど交流を深めてきました。さらに、近年は、地域経済活性化のため、農林水産業と商工業とが連携する「農商工連携」が活発になり、今まで以上に連携が必要になる場面も多くなりました。

そこで、平成23年度以降、共同研究として工業技術を農業に利用しようという試みも行ってきました。その一つとして、ブラウン管ガラスをガラス発泡体にし、リン酸吸着剤(肥料)として利用する研究があります。これは、ブラウン管ガラスと農業用排水という2つの廃棄物を再利用することで、全く新しい肥料を開発したものです。さらに、これまで化学繊維で作られていた農業用防虫ネットをステンレス繊維で作り、従来にない耐久性をもった防虫ネットを開発する研究も共同で行いました。

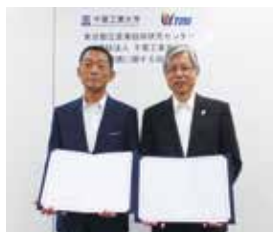
このように、全く違う分野が連携することで、農業、工業それぞれが思ってもみない方向に大きく変化する可能性があります。そのため、今後も都産技研や工業系の中小企業の方々とともに新しい農業技術を開発していけたらと思っています。

9・10月の協定締結

平成26年9月30日(火)
学校法人 千葉工業大学

産学公連携活動の活性化および高度専門技術者の育成を目的に、業務連携協定を締結しました。

写真左から、
学校法人 千葉工業大学 瀬戸熊理事長
都産技研 片岡理事長



お問い合わせ 交流連携室<本部> TEL 03-5530-2134